

(8) 防災学習発表会

本事業のまとめとして防災学習発表会を実施し、児童・生徒の学びを地域に発信した。

第1部では、危機管理課から「津波浸水避難シミュレーション」の周知と、今年度の児童・生徒の活動報告を行った。そして、第2部では、近藤ひろ子氏の進行のもと、代表児童・生徒12名が、今年度の防災学習の成果や、今後の防災に対する取り組みなどについて討論した。

(ア) 実施日時／場所

1月12日(土) 13:30～15:30 / 子育て・多世代交流プラザ(ふれあいホール)

(イ) 発表者：一色中学校1年生 代表8名、一色南部小学校5年生 代表4名(1名欠席)

進行：防災教育アドバイザー 近藤ひろ子氏

参加者：市内の自主防災会や学校関係者等 約230人

(ウ) 内容

第1部の児童・生徒の活動報告では、今年度実施してきた内容を、スライドを使って説明した。参加者からは、「犠牲者ゼロを目指す取り組みが素晴らしい。あとは地域がどれだけ意識するかが課題である」「取り組みを広げていくことも大切だが、もう一方で、続けていくことも大切である」「小中学生に防災学習をさせることはとても大切なことである。このような内容を報告してもらえてよかった。子どもたちを通して、地域の各家庭にも伝わっていくことを願っている」といった感想をいただいた。

第2部では、近藤アドバイザーの進行のもとで、代表の児童・生徒による意見交換会を行った。発表者は『①防災学習を通して思ったことや考えたこと②家庭で防災に取り組んでいること③防災に対してこれから取り組んでいきたいこと』について、これまでの経験や体験から得た知識や考えを、堂々と発表していった。また、随所に近藤アドバイザーより参加者に向けての補足説明をしていたことで、参加者にとっても分かりやすい内容となった。そして、発表の最後には、児童・生徒一人ひとりから「防災標語」を発表した。

チラシ



防災学習発表会の様子



舞台上で堂々と意見を発表する代表の児童・生徒



約 230 人の参加者



今年度の活動報告



挨拶をする中村市長



近藤ひろ子アドバイザー

小中学生が発表した防災標語

<小学生>

- 「どうしよう？ そうなる前に 今準備」
- 「防災は 命を守る 宝物」
- 「防災は 人の命を 守るんだ」
- 「しっかりと 訓練をして 備えよう」

<中学生>

- 「西尾市から 全国へ防災意識 広めよう」
- 「自分から 想定だけを 信じるな」
- 「何よりも 大事な命 守りたい」
- 「避難時に みんなでつなく 言葉から」



- 「声かけて 命をつなく ボイスリレー」
- 「防災を 普段から意識 備えよう」
- 「防災は 備える分だけ 笑顔ふえる」
- 「一つでも 多くの命 守ろうよ」

参加者にとってアンケートに目を通すと、児童・生徒の発表を聞いて、多くの参加者が防災に対する意識を高めることができたと感じた。そして、改めて「子どもたちから発信する効果」を実感することができた。

【参加者の声】

- 子どもたちの防災に対する意識の高さに感心し、頼もしく思えた。そして、防災文化の種まきができていると感じた。
- 小中学生はしっかりとした意見をもって、改めて日頃からの準備が大切だと思い知らされたし、これまでの自分自身の防災に対する意識を反省させられた。
- 小中学生の真剣な取り組みを知ることができ、防災教育が充実していることがよく分かった。また、小中学生の意見を聞いて勉強になったし、自分自身も防災に対する関心が高まった。
- 今後も、小中学生をはじめ、老人も含めてさらに輪を広げられたらと思う。
- 小中学生の力は大いに期待できるので、西尾市全域で活動できるよう、行政のさらなる支援強化が必要だと感じた。